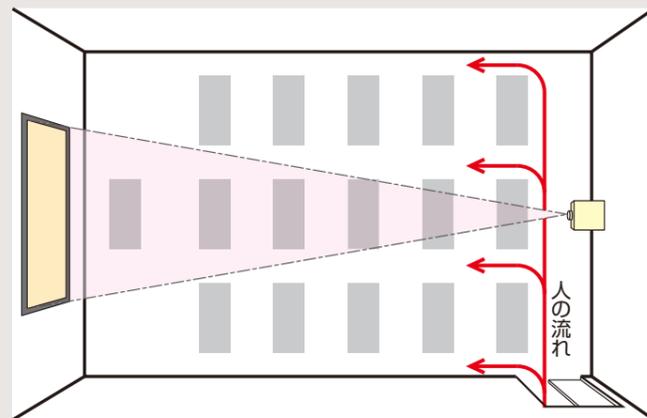


- 1 スクリーンを設置する場所を決めます → 2 スクリーンのサイズを決めます → 3 スクリーンの設置方法を決めます → 4 スクリーンの生地を決めます

スクリーンの設置場所

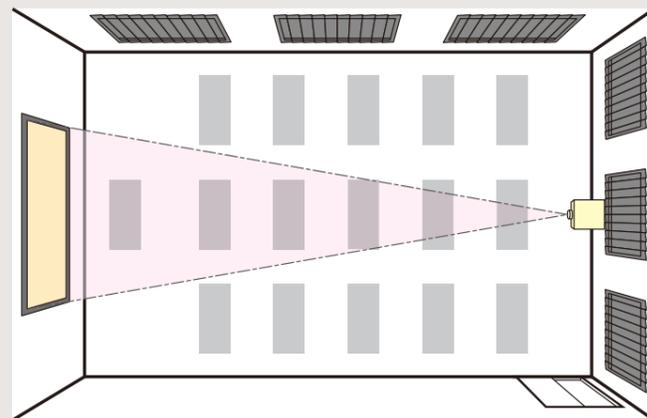
視聴環境を考慮してスクリーンの設置を検討します。会議や研修会でスクリーンを使用する場合には、入り口からの人の出入りにも注意を払う必要があります。

フロントスクリーンはプロジェクターから投写された光を反射させますが、同時に外光や照明などの有害光も反射させますので、窓の位置や蛍光灯の位置も考慮し有害光を遮断する事で、映像素材の忠実な再現が可能になります。



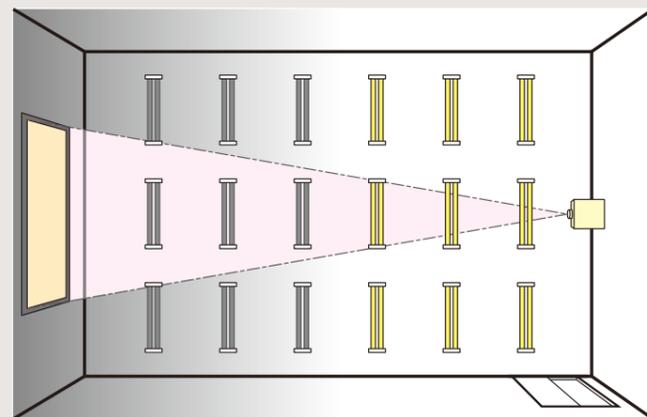
■理想的な室内環境

有害光(外光)が入る窓も無く、視聴者の出入りでプロジェクターからの投写を妨げない位置にスクリーンを設置するのが理想的な室内環境で、最も忠実に映像の再現ができます。



■外光のシャットアウト

スクリーンの正面や側面に窓がある場合、有害光(外光)の反射を防ぐため、スクリーンの設置位置の調整や、窓に遮光設備を付けることにより映像の忠実な再現が可能になります。

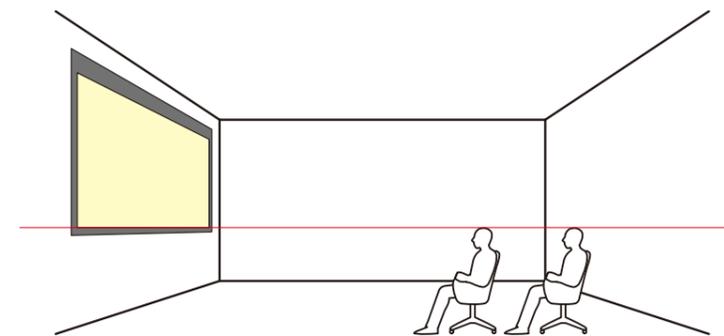


■室内灯の影響

映像に与える有害光は外光だけでなく、蛍光灯や他の照明器具からも影響を受けます。スクリーンに蛍光灯などの光が直接当たらないことが理想ですが、スイッチで照明を切り分けできればベストです。

視聴位置とスクリーンの設置の高さ

視聴者の全員が映像を見るためには、スクリーンを設置する高さが重要になります。一般的に、視聴者の座高とスクリーン映写部の下辺の高さが等しい状態が視聴に適しているとされています。スクリーン高が低すぎると映像が前方の人に遮られてしまい、高すぎると前方の人は見上げる状態になってしまいます。

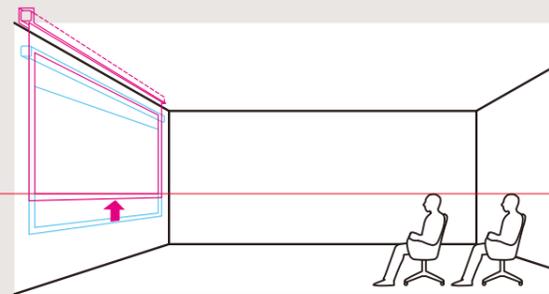


スクリーン高は設置方法によって調節が可能です。

また、スクリーン高を決定することで必然的にスクリーンサイズの目安も決まります。

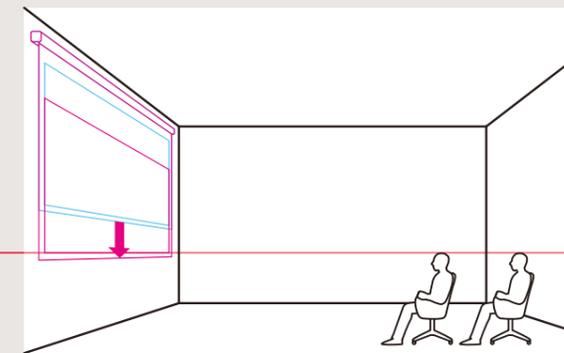
■部屋の天井が低い場合

天井にボックスを作り、スクリーンの取り付け位置を高くすることで対応します。



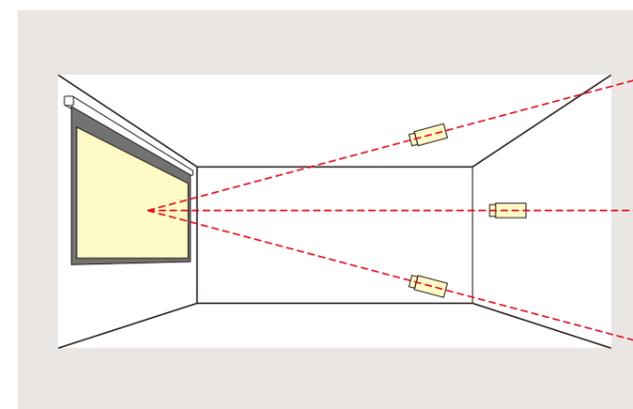
■部屋の天井が高い場合

上部黒マスク部分を延長し、映写部を低く設定して対応します。



プロジェクターの設置位置

プロジェクターの投写位置と、視聴者の位置関係によってスクリーン生地の選定がわかります。スクリーンの反射特性▶P.12



天吊り

専用の取付金具などで天井よりプロジェクターを吊るす状態です。スクリーン生地は拡散型(ホワイト)や反射型(パール)が適しています。

ハイマウント

スクリーンの中心と同じ高さにプロジェクターを設置する状態のことをいいます。すべての生地が適しています。

床置き

プロジェクターを床面近くに設置し、見上げる状態で投影することをいいます。スクリーン生地は拡散型(ホワイト)や回帰型(ピース)が適しています。